

「発達障害の映画を観る会 3 作品映画無料上映会プロジェクト 2019-2020 」

代表 情報電子工学系学科 佐藤公治

10年目を迎えて

今年度は上映活動を始めてちょうど10年という記念の年でもあって例年にはない取り組みを行いました。より多くの方に来ていただけるように学外の生涯学習センター「きらん」という施設で会を開催した点と、映画2作に加え映画会メンバーがそれぞれの思いを語る自主制作の短編映画を撮影し、会の冒頭で上映したという点です。初の試みではありましたがメンバー全員で協力し、充実した映画会にすることができました。来場者は87名、アンケートにも協力してくれた方は59名と、昨年よりも高い割合で回答していただくことができました。今年は2作品の上映でしたが、そのどちらも「とても良かった」「まあ良かった」を合わせた回答が8割以上と高い評価を得ることができました。



上映会当日の様子

上映作品に対する意見

前半で上映した「500ページの夢の束」は障害を持つ主人公が懸命にハリウッドへの長く辛い道のりを旅する姿に希望を持たせ、障害のある人でも苦難を乗り越えられる可能性があると思ったなどの意見が寄せられました。また、皆と同じでいるのが当たり前で普通であることが一番だと言うけれど、改めて普通とは何かを考えさせられたという声や、どんな障害を持っていたとしても心は伝わる人が多いという声も見かけられました。作中ではハラハラする展開もあり、純粋に映画としても楽しんでいただけたかと思います。

後半で上映した「道草」については全体的に「500ページの夢の束」よりも高い評価が得られ、知的障害者の生活の様子を知ることができて良かった、重度障害者の地域生活を支えるあり方、支援について勉強になったなどの意見がありました。こちらはドキュメンタリー映画で、知的障害者のユーモラスな一面や過激的な面がリアルに描写されていて自分はどうあるべきなのか、彼らとどう向

き合わねばならないのかなどを考えさせられた方も多かったのではないかと思います。また介護関係者側の経済面などの作中では詳しく描かれなかった場面への疑問の声もあり、こちらについては調べて知り得たことをまたの機会にお伝えたいと思いました。感想会にも参加していただいた方は17名のうち12名は映画会スタッフです。各映画の印象や感じたことを共有し、自分以外の人の世界観に触れることでより自分の感性を深めることができました。また、自分と似た価値観を持っている人との交流もあり満足度は高かったと思います。ただし今回は2作品の上映により感想会の時間が押してしまい、もう少し感想会の時間を設けて欲しかったという意見もありました。今後の時間配分の参考にしたいと思います。



上映後の感想会の様子

来場者の感想

来場の動機についてその多くは、身の回りに発達障害を抱える人がいて支えとなるのに参考にしたい、発達障害に興味を持ち理解するための1歩として参加したなどです。そしてこの映画会については新聞やチラシで知ったと答えた人が集計の約3分の2を占めました。今後より一層多くの人が発達障害について考えられる、思いやれる社会づくりの1歩として、映画会の活動を知ってもらえるように尽力したいと思います。発達障害については、「障害者と共に生きることの大変さ、周囲の人達の大変さを身近に感じた」「生きづらい世の中だと思うので、自分も良き理解者になりたい」という意見を書いてくださった方もおり、このような考え方を持つ人が増えていけたなら少しずつ当事者との壁も無くなるのではないかと思います。